

文部科学省
新時代に対応した高等学校改革推進事業
令和6年度 実施状況報告書



伊丹市立伊丹高等学校

市立伊丹高校の挑戦

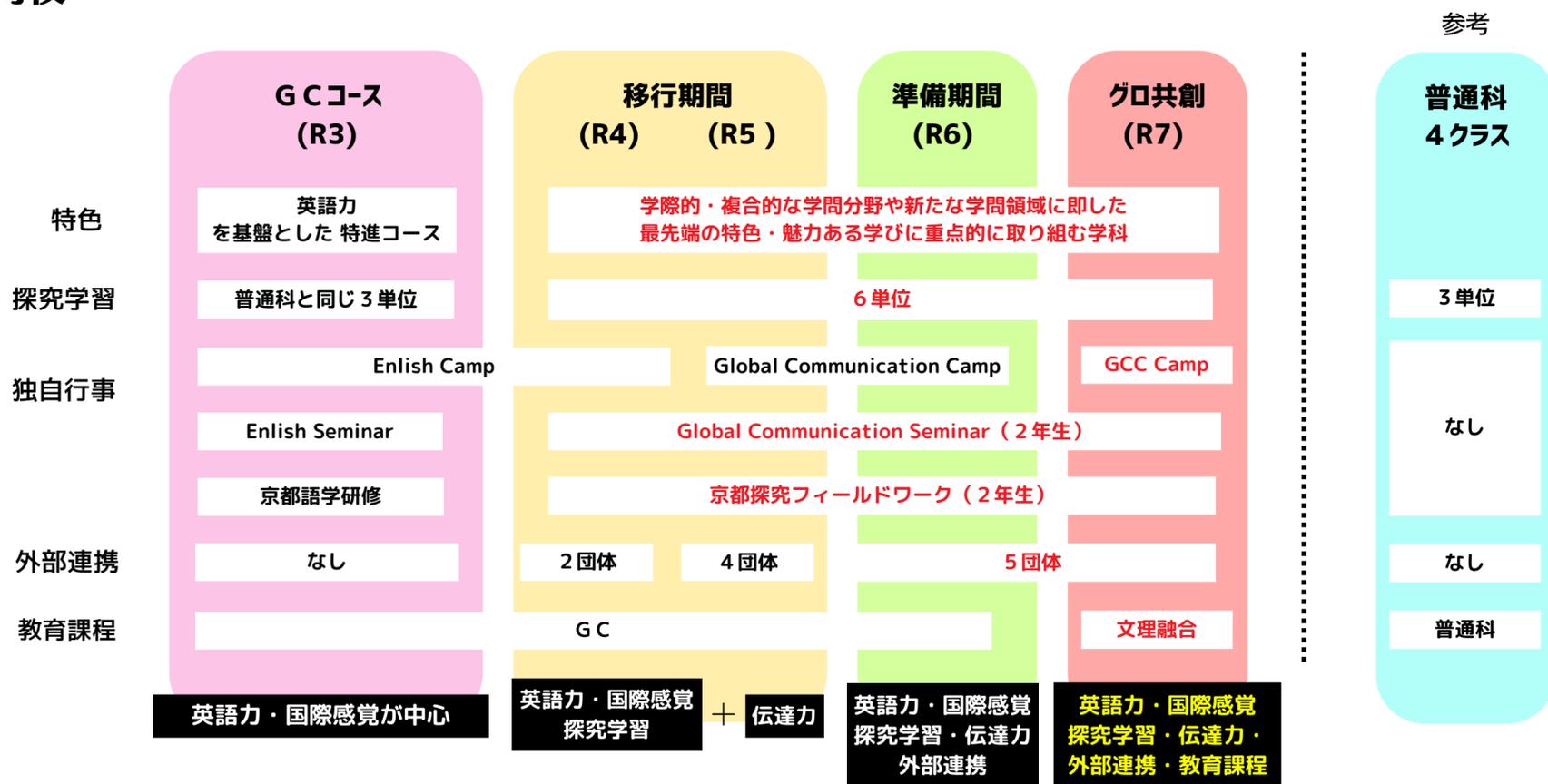
文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業

令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化（普通科改革）や教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を推進し、探究・STEAM教育、特色・魅力ある文理融合的な学び、今後の社会に望まれるデジタル人材育成等を実現するため、令和4年度から設置が可能となった新しい普通科の設置を予定している学校の取組を推進するとともに、遠隔・オンライン教育等を活用した新たな教育方法を用いたカリキュラム開発等のモデル事業を実施する。加えて、新学科における学びや教科等横断的な学びを実現するためには、地域、大学、国際機関等との連携協力、調整が必要であり、その役割を担う「コーディネーター」について、その育成や活用を支援するための全国プラットフォームを構築する。

普通科改革支援事業

令和4年度より設置が可能となった新しい普通科を設置する予定の高等学校等に対し、関係機関等との連携協力体制の整備や、コーディネーターの配置などの支援を行い、新学科設置の取組を推進することで、探究・STEAM教育や特色・魅力ある文理融合的な学びを実現する。

市立伊丹高校



グローバル共創科

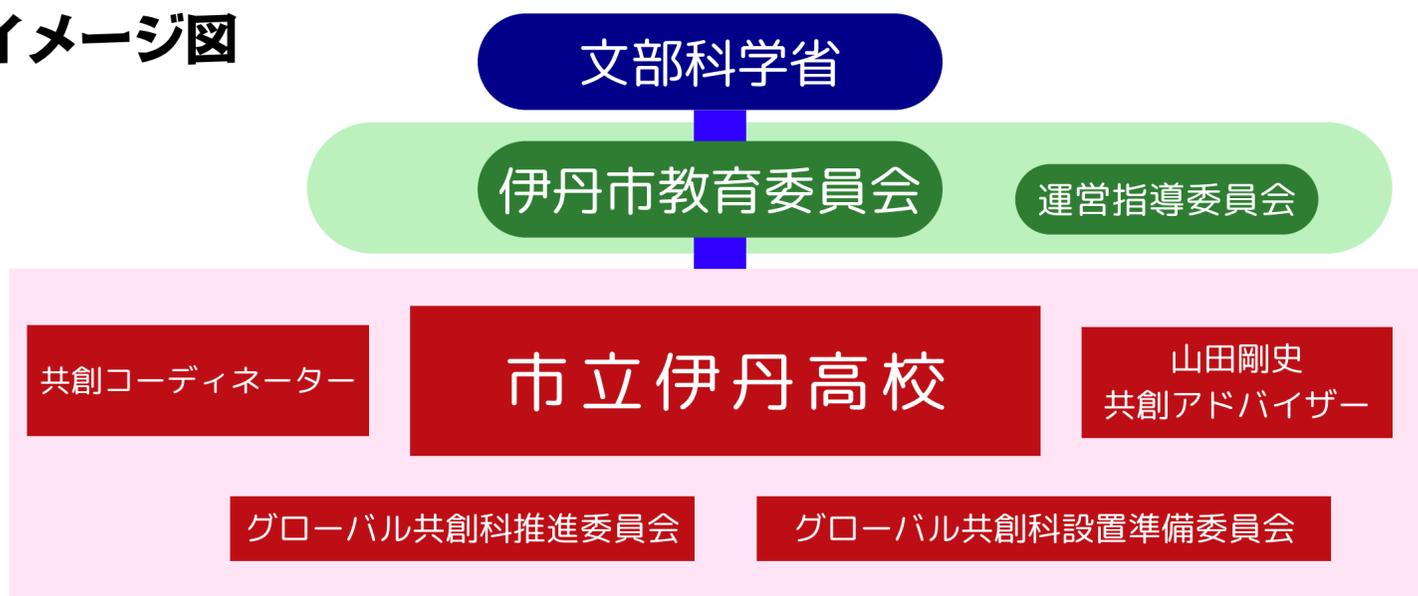
令和7年度から、「グローバル・コミュニケーションコース（国際文化系）1クラス」を「グローバル共創科（普通科新学科学際領域）1クラス」に改編するため、令和4年度入学生から、先行的・段階的に探究学習を軸とした教育活動に取り組んできました。

グローバル共創科で育成を目指す資質・能力



令和6年度実施体制

実施体制イメージ図



運営指導委員会

伊丹市教育委員会が、学識経験者等とともに、本校の高等学校改革に関する研究開発を推進するために設置。

- ①令和6年8月
- ②令和7年1月に委員会を開催。

GCC推進委員会

本校が、連携する外部の専門家や学校運営協議会の委員等とコンソーシアムを形成し、グローバル共創科の研究開発の推進のために設置。

- ①令和6年10月
- ②令和7年3月に委員会を開催。



GCC設置準備委員会

令和7年度からのグローバル共創科設置にむけて、先行実施の取組を評価するとともに、教育活動・教育課程等について協議・研究する校内組織。年間7回、17名の教員で委員会を開催。

共創アドバイザー

関西大学・山田剛史教授に委嘱し、GC生への特別講義、教員への職員研修等を年間6回実施。また、年間4回、教員との「共創会議」を開催。

先進校視察

令和6年11月以降、新学科の担当者が、全国の「新時代に対応した高等学校改革推進事業」の採択校等を視察訪問したり、主催の研究会に参加したりして、先行的な実践から学ばせていただきました。

★令和6年度 視察テーマ★

- ・各校の探究学習の特色化の工夫
- ・探究学習と教科学習の往還
- ・新学科における校内組織体制



Reflection

参考とした事例の一部

- ・「総合的な探究の時間」と「学校設定科目」を有機的につなげる
- ・「発表する」だけでなく、「作る」「動く」も探究の成果のひとつである
- ・やりたいことは知っていることの中からしか生まれない
- ・「高校DX加速化推進事業」(文部科学省)を活用し、デジタル環境を整備する
- ・探究を入口として、コンピテンシー(資質・能力)で教科・科目をつなげる
- ・探究学習で生徒の潜在能力を引き上げる
- ・教員自身が探究者となる

社会とつながる探究学習（1学年GCコース・1単位）

令和6年度テーマ：お金
探究単位：個人

連携先：株式会社マネイク（キャサリンとナンシーの金融教育）
株式会社大阪取引所



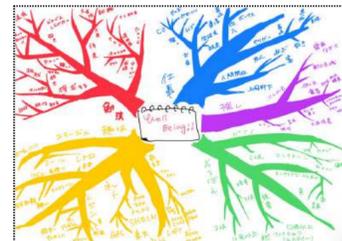
「ウェルビーイングなお金の使い方 ～ 〇〇歳で〇〇〇万円」

探究学習に関わる主な取組

1 学期

山田剛史共創アドバイザーによる特別講義「探究学習ってなんなん？おもしろいん？」
キャサリンとナンシーによるキックオフ講義「ウェルビーイングなお金の使い方」
グラフィックデザインツール Canvaの導入
クラス内発表会「ウェルビーイングとは？」（2分間・ポスター1枚・発表動画提出）

マインドマップでアイデアを広げる



「ウェルビーイングとは？」のポスターの一部



【山田共創アドバイザーの特別講義の学び】

今日の講義を聞いて私は自分で考えて伝えることの大切さに気づかされました。私は、まだ探究学習をしたことがなく、どんなものかわからないですが、取り組んでみるのがすごく楽しみで興味が湧きました。自分で気になったことについて調べる、そして、発表するということは、不安ですが、大学生になっても活用できる力だとおっしゃっていたので、その力をたくさん身につけられるようにしていきたいです。この三年間の探究学習を通して、社会と未来と世界、私自身を繋げられるようなものに、最終的にできるように、色んなことに挑戦していきたいと思っています。

2 学期

キャサリンとナンシーによる特別講義「ミッションの提示」
大阪取引所による出前講座「ブルサ（ボードゲーム）を用いて社会や経済の動きと株価」
大阪取引所探究訪問・特別講義「シミュレーターを用いて投資体験」
クラス内発表会「〇〇歳の時に〇〇〇万円準備するには？」（5分間・スライド6枚・発表動画提出）
1・2年GCコース発表会

「〇〇歳の時に〇〇〇万円準備するには？」のスライドの一部



「ブルサ」で株を学ぶ



大阪取引所探究訪問



クラス内発表会



1・2年GCコース発表会



【大阪取引所の出前講座の学び】

今日は株の仕組みについて学び、実際にゲームを通して株を買うことで、株というものを前よりも理解することができました。キャサリンとナンシーが言っていたようにお金を増やすという段階は難しいし、知識や社会についてもっと知ってから増やしていくべきだと改めて思いました。だから、将来お金を貯めるためにもっと新聞やニュースを見て社会の動きやお金について学んでお金を増やす準備をしたいと思いました!!

社会とつながる探究学習（1学年GCコース・1単位）

3学期

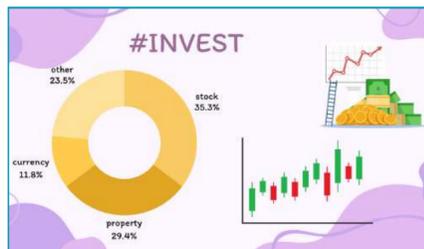
ALTによるプレゼン講習【英語】

伊丹探究フォーラムでの発表

クラス内探究発表会【英語版】（スライド・発表動画提出）

ALTへの探究発表会【英語版】

英語発表のスライドの一部



By age	People who have saved 10 million yen	Average
20th Generation	2.7%	1.85 million yen

By annual revenue	People who have saved 10 million yen
Fewer than three million	17.3%
3 to 5 million yen	27.3%
10 to 12 million yen	53.7%

(Source: Central Council for Financial Services Information)

Reflection

成果

・全員のテーマが同じ「一斉探究」を通じて、生徒は探究の基礎スキルを身に付けることができた。特に、粘り強さと伝達力が育まれた。

・探究を通じて、生徒は自分の将来の「お金」と「ウェルビーイング」について深く考えることができた。

課題

・教員とのワンオンワンや生徒同士の間発表等を実施したが、個々の生徒の創造性や独自性をさらに高められる教員のファシリテーションスキルの向上が必要である。

生徒による1年間の振り返り（形式は自由）

・投資についてせっかくだくさんのお話を聞いたり、大阪取引所に行かせていただいたりしたのにインターネットで調べたような誰にでも知ることができる内容をそのまま取り入れることしかできていませんでした。これではただの調べ学習だし、内容が薄くてGC生じゃなくてもできたと思います。自分の意見や自分の将来の夢、やりたいことを入れて適切な資料を作ることはできて、今までの海外との交流や、キャサリンやナンシーのお話から得た知識や経験をつなげて考えられていませんでした。これは本当にもったいないし、活かせる部分はたくさんあったと思います。例えば、〇〇さんの発表を参考に考えると、「そもそも働いて稼ぐ以外に投資でしかお金を貯めることはできないのか」「デメリットもある中で本当に自分は投資がやりたいのか」今まで聞いたお話を元にする、もっと深く考える余地はいくらでもあったと思います。他の人の発表を聞いて、もっと様々な視点からの違った考え方があることに気付かされました。もっと広い視野をもって、色々な情報やお話を吟味し、様々な体験を通してしか得られない私たちGC生ならではの考え方が足りませんでした。この考え方こそが探究活動の中で一番と言って良いほど大切なことだと思います。もっと面白くて興味を惹かれるような探究がしたいです。

・今回の探究を通して、人に自分の考えを伝える力や自分の疑問を解決しようとする力が成長したと思っています。また、今までは何か学んだり、考えたりしても何も思わなかったのですが、探究活動をしていくにつれて、「ここはなんでこうなるんだろう」と思ったり、「どうしたらこうできるのだろう」など疑問や知りたいことがどんどん思い浮かんできて、それを外部の講師の人に聞いて学んだり、自分で解決できたりすることが楽しかったです。

・毎時間の振り返りでメタ認知をつけることができたと思う。これによって自分の状況を理解し、目標までの自分の距離を測ることができ、計画性をもって新しいことを始められた。また、自分の言葉で説明する力、自分で考える力をつけられた。与えられたものをこなすだけでなく、+αのことも考えて行動できた。ChatGPTなどのAIが発達している中でそれらに頼らず、0から1（発想）、9から10（伝達）を特にこだわることができた。相手に伝わりやすく、見やすいスライドの構成もCanvaを相棒に表現できた。

まとめ

私は、1学期から探究をして2学期のお金についてが今までにないくらいもやもやしてすごく苦しかったなと思います。けど、もやもやした分成長できたし、苦手なお金の仕組みについて講義やゲーム、実際に訪れたことで少しずつ理解することもできました。なにより、2学期で一番大きかったのは周りの人たちの支えです。3回もモヤモヤピークがあったけどそのたびに誰かからアドバイスを貰ったり、相談したり、知識を分けてもらったり、本当にたくさん助けられました。1人でやっていると思えば狭くなるし余計に頭が混乱していくと分かったし、そういうときは誰かの力を借りていくことも大切なんだと学びました。まだまだ私の探究は続いていくので、このマインドを忘れず楽しく今後も探究活動していきたいと思っています!!!

※正しくは「探究」です

01. 英語探究で学んで知れた事、できるようになった事

株式や金融の仕組みを学べた

プレゼン力が向上した

諦めないチャレンジ精神が身についた

「そういうもの」で終わらせなくなった

Q 私が学んだことは3つあります。

- ① 一度で決断しない
- ② 振り返ることの大切さ
- ③ 客観的に考える

学びをつなげる探究学習（2学年GCコース・2単位）

1 学期

令和6年度テーマ：科学

探究単位：グループ

連携先：伊丹市立こども文化科学館

MISSION

「子どもたちを知らない世界に連れて行ってあげる」（プラネタリウム） 「子どもたちに見えないものを見せてあげる」（ちょこっとサイエンス）

探究学習に関わる主な取組

- 山田剛史共創アドバイザーによる特別講義「探究学習やってみてどう？楽しめてる？」
- 伊丹市立こども文化科学館訪問・体験
- 伊丹市立こども文化科学館の職員による助言・相談対応（6回）
- 現地での発表会（約50名の来館者（主に子どもたち）に対して）



グループで探究する様子



プラネタリウムでの発表



ちょこっとサイエンスの発表



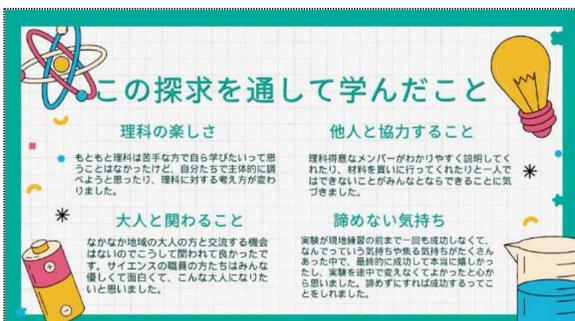
生徒による1学期間の振り返り（形式は自由）

・みんな自分の考えを持ってぶん伝えたいことが多くて物語がまとまらなかったり、こだわりがあって曲が決まらなかったりして進まない時間もあったけど、そんな時は一番最初のマインドマップに戻った。振り返るとモヤモヤ、頭を使って考えてる時間がまさに探究だったと思う。地道な時間があつたから密のある内容になって、日頃からなにか学びたいという好奇心を持つことを続けて生活したら、予想以上のものができるかも。「何で？」をすぐ調べてメンバーに共有すると、「じゃあ、こうしよう」と新しい意見や考えが飛び交う雰囲気が心地良いし楽しかった。

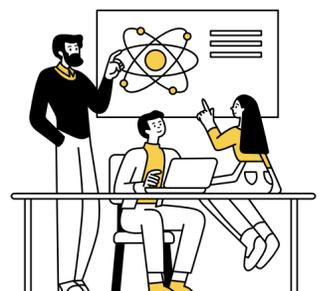
・子どもに分かりやすく伝えるための言葉を考える時に、自分が子どもだったらとか、自分自身の目線と気持ちを替えて、成りきって考えると改善点が出てよかった。自分から学び、学んだことを相手が理解できるように伝える方法を見つけだす事は、たくさん方法があって、伝える環境、伝えたい相手に合わせて選ぶのが良い。これからの探究活動でも“相手に伝える”という点で、今回の気付きを活かせると思う。言葉だけじゃなくて、手、絵、表情、映像を方法のひとつとして使いたい。

・最初、自分たちの班が選んだオシロスコープの実験は、そこまで難しいものとは思っていませんでした。でも実際に実験が成功したのは本番の1週間前のリハーサルのときで、予定よりも数時間長く科学館のスタッフの方に手伝ってもらってやとでした。実験道具の準備の時間や、発表にかかる時間など、自分たちの班の中だけでは考えきれていなかった部分の調整も、対策を提案してもらいました。今回の探究学習は、同じチーム内の人との情報共有などの複数人で動く難しさや、周りの人からの助けの重要性を学びました。はじめから完璧な状態で作り上げることは相当難易度の高いことなので、はじめは完璧じゃないものだとして理解して、実際に確かめて、だめだった部分をまとめて、その対策を考えるということサイクルを身につけることが大切だとわかり、フィードバックの大切さを感じました。

※正しくは探究です



協働マインドマップ



学びをつなげる探究学習（2学年GCコース・2単位）

2・3学期

令和6年度テーマ：なし（マイ探究）
探究単位：個人/グループ（選択）

連携先：関西大学



MISSION

「各自のモチベーション×リサーチクエスチョン×グローバル」

探究学習に関わる主な取組

2学期

山田剛史共創アドバイザーによる特別講義「探究学習の意義と良質な実践に向けて」
教員、ALT、関西大学インターン生とのワンオンワン
京都探究フィールドワーク
クラス内中間発表会
1・2・3年GCコース中間発表会

京都探究フィールドワーク



3学期

クラス内発表会（スライド・発表動画提出）
伊丹探究フォーラムでの発表
兵庫県高等学校探究活動研究会での発表
1・2年GCコース発表会
ALTによるプレゼン講習【英語】
クラス内探究発表会【英語版】（スライド・発表動画提出）
ALTへの探究発表会【英語版】

クラス内発表会



伊丹探究フォーラム



生徒による2学期間の振り返り（形式は自由）

・1学期に取り組んだこども文化科学館との探究学習では抽象的ではあるもののテーマが与えられていたので、それに沿ってある程度進むべき方向も決めることができていました。でもこの2学期からのマイ探究では、1からではなく0から自分で進めていかなければならなかったため、まずテーマを決めることに悩みに悩んだし着地もどうすればいいのか全く見当もつかずに始めなければいけません。ただ個人的には今回の探究の方が熱意がこもっているためやり切った感があるし、満足感も高く、このテーマで探究の楽しさを更に深く理解できたと思います。

・探究することによって普段見えないところまで見えてくる！探究するためにはそのことについて自分自身が詳しくならなければいけないので、何事においてもいろんな方向から物事を考えていくのが大事だなと思いました。今回のように日常での新しい発見や気になることが少しでもあればそのままにせず、さまざまな視点で考えて深めていきたいと思っています。

・今回の探究発表で大切にできたことは、見やすさ、聞き取りやすさはもちろんですが、自分が探究して疑問に思ったことと、その答えは必ず言うようにしたこと。聞き手の気持ちに寄り添う発表が大切だと思いました。また飽きさせないためにユーモアも必要だなと感じました。海外にも視点をあてて広範囲で探究できたと思います。今回初めて友達と二人でがっつり探究して、すべて自分の思い通りにできないストレスは少なからずありましたが、同じ熱量で互いに意見を出し合って支え合える仲間がいることはすごくいいことだなと感じました。

・先生たちと面談したり、友達に相談したりして、自分と向き合った時間は他の人よりも長かったと思います。マイ探究が満足の出来だとは言えないけれど、悩んだ時間もうまくいかなかったことも自分の探究に含まれていると思うので、結果的に良い経験になったなと感じました。最終的に自分の好きなことを探究できて良かったし、限られた少ない時間の中で、全力で頑張ることができました。

Reflection

良い探究の共通点

1 リサーチクエスチョン(RQ)が興味を惹くものである
自発的なクエスチョンの提示が探究を魅力的にし、普段からアンテナを高く保ち、知識を積み重ねることが重要である。

2 仮説⇒検証の流れを踏んでいる
実際に行動して、仮説を検証する探究が魅力的である。ワンオンワンで仮説検証の方法を考えさせ、行動に結びつけることで深みが増す。文系でも論理的な検証が重要である。

3 最終的にRQに対する自分なりの解を提示している
RQの質が問われ、広がりすぎて元の問いを見失うことが多い。文系の探究は「縦の深まり」が難しいため、探究の道筋を「ロードマップ」で可視化することが効果的である。

世界とつながる探究学習（1・2学年GCコース・1単位）

連携先：兵庫県国際交流協会
株式会社With The World
伊丹市教育委員会
日本台湾交流協会



1 学期

世界とつながる交流会（外務省勤務のGCコース卒業生との交流）
カナダの高校教員とオンライン交流（Canada, Regent Christian School）
世界とつながる英語講義（America, Ivy Tech Community College）
インドの学生との対面交流（India, Republic Central College）
日韓グローバル公民権プログラム オンライン研修（Korea, 全羅南道国際教育院）
日韓グローバル公民権プログラム 韓国キャンプ（Korea, 全羅南道国際教育院）
オックスブリッジ英語キャンプ（U,K, Oxbridge University）
台湾からの留学生の受け入れ（日本台湾交流協会）



世界とつながる英語講義



インドの学生との交流



韓国キャンプ



オックスブリッジ英語キャンプ



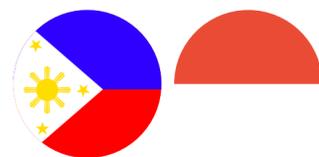
2 学期

アメリカの高校生とのオンライン時差交流（America, Bella Vista High School）
オンライン探究交流（1年GC生：Vietnam 2年GC生：Afganistan, Philippines）
佛山市学生代表団との対面交流（China, 佛山市）
香港の高校生との対面交流（Hong Kong, Buddhist Yip Kei Nam Memorial College）
韓国の高校生とのオンライン交流（Korea, Namak High School）
日韓グローバル公民権プログラム 対面交流（Korea, 全羅南道国際教育院）



3 学期

韓国の高校生との対面交流（Korea, Namak High School）
オンライン探究交流（1年GC生：Bangladesh, Indonesia, Myanmar, Philippines 2年GC生：Indonesia）



オンライン探究交流



佛山市学生代表団との交流



香港の高校生との交流



韓国の高校生との対面交流



世界とつながる探究学習（1・2学年GCコース・1単位）

交流の形式

- オンライン交流：各自のタブレットからオンライン会議ツールに参加してグループに分かれて交流する
- オンライン探究交流：各自の探究テーマに関する質問・調査・概要発表を実施する
- オンライン時差交流：オンライン掲示板アプリを用いて、動画を通じて交流する
- 対面交流：交流人数に応じてゲーム、クイズ、文化紹介、探究調査等をしながら交流する
- 留学生の受け入れ：2年GC生の一員としてGCコースのカリキュラムで学校生活を送る



交流の目的

- 国際感覚：国際理解・異文化理解とともに、より広い視野で多角的に物事を考察する
- 実用的英語力：英語をツールとして、新たな考えや情報を得たり、伝えたりする



グローバルな課題を探究するのではなく、自分事の問題をグローバルな視点で探究する

国際交流の学び

【香港の高校生との交流の学び】

・2対2とかの少人数で同年代の人達と交流をすることは初めてだったのでとても楽しかったです。少人数だから自分から英語を話す機会がとても多くてたくさん英語を話せました。英語でなんて言うんだろうと思ってぎこちなくなっていた部分もあったけどほとんどの英語が伝わったしちゃんと会話ができて達成感がありました。香港の有名な場所や香港の学生の趣味を聞いたり日本の食べ物や街をどう思っているのかなど色々なことを聞いて、自分たちとは違う考え方が沢山あっておもしろいなと思ったしとてもいい経験になりました。1時間しか無かったけど色々勉強できたし会話もできて濃く楽しい時間でした。

【韓国の高校生との交流の学び】

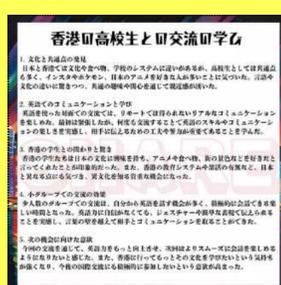
・以前交流した経験があったのでその時の反省点を活かして、今回はより良い交流ができました。1回目の交流後から交流する国のことや文化、日本との関係を調べていたことにより、どのような話題を話せば良いのかや韓国に対してどのような考えを持っているのかを伝えると共に、韓国の考え方も知ることができて文化が違うことによる良さを感じることができました。以前の交流では言語の壁を大きく感じてしまい、話題がうまく見つからず思うように交流ができなかったなど反省点がありましたが、今回は時間が終わるまで話題が絶えず、お互いの生徒が質問し合えたので良い交流ができたと思います。

・韓国の高校生たちと交流して学んだことは、自主的に行動することの大切さです。お互いにシャイな人が多いと言われている国だったので話し始める人を決める時や、英語がうまく伝わらない時は同じ国同士の人と話しがちだったけど、やっぱりそれは嫌だったので私が知っている限りの韓国語をうまく使いました。そうすると相手も心を開いてくれて仲良くなることができました。クイズを通して文化も知れたし、簡単な韓国語も教えてもらったので話しかけてよかったなと思いました。相手の国のことを知ってから話すことの大切さと自分から行動することの大切さを学べた深い1日でした。

世界の高校生と学び合う工夫の一部



交流



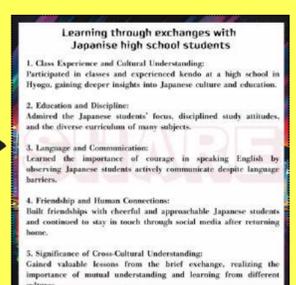
クラスの学び
をクラス内で共有する



クラスの学び（英語版）
を交流校と共有する



交流校から学びが
共有される



クラスで交流校の
学びを共有する

探究学習を軸とした取組

7月 Global Communication Camp (GC 1年生対象@琵琶湖グランドホテル)

1日目 英語の日 ALT 5名による英語ワークショップ

2日目 探究の日 山田剛史共創アドバイザーによる探究ワークショップ

【GC Campの学び】

・最初は、分からないことばかりだったらどうしようとか、間違えたら恥ずかしいと思っていたけど、ワークショップを通して、ALTの先生が教えてくれたりして、学んで成長することが出来たので、すぐに失敗が怖くなくなりました。これからもたくさん失敗して間違えて成長したいと思います。また、積極的に行動することも大切だと思いました。ALTの先生に分からないことを聞くのも、スキットでこうしたらいいと思うなど意見を出すのも、ディベートで意見を交換するのも、山田先生に声をかけるのも、すべて積極的に行動できたからこそ、すべて良い結果になったので、まずは行動するというのを大切にしようと思いました。クラスルームで募集されるイベントなどに参加したり、先生に質問をしに行ったりなど何かひとつ積極的に行動していい方向に変わることが沢山あると思いました。GCキャンプで学んだことを普段の生活や、探求活動に活かせるように、間違えて成長して、行動していきたいです。自分の力で自分の夢を叶えるために、未来を変えるために頑張りたいです。

GC Camp 2024



9月 World Tour In Itami (GC生有志13名@伊丹市内)

伊丹青年会議所主催のイベントに関西大学の学生4名と「小学生が英語を楽しめる」ブースを出店

12月 GC JOINT (GC 1・2・3年生@本校)

協働学習と探究発表会を中心としたGCコースが縦でつながる学び合いの2日間

【GC JOINTの学び(1年生)】

・GCの縦のつながりや学校と社会とのつながりを強く感じられる2日間でした。楽しみと少しの緊張感を持って参加しましたが先輩や後輩の関係であってもそれを感じさせないほどアットホームな空間でどの講義も楽しく有意義な時間を過ごせました。2、3年生の探究発表では、それぞれ違った内容でオリジナリティやリアリティがあり、どの発表を聞いていても飽きなかったです。学校での活動だけで止まるのではなく、その学びを通して自ら企業に問い合わせたり、物事を様々な視点から見るためにアンケートを取ったりなど、その次その次と深く探究を行っている姿が特に印象に残りましたし、今後どのように探究活動を行っていけばいいのか、ヒントを得られました。また、来年、再来年、探究発表をしていく上での将来像を描くことができました。

GC JOINT



GC JOINT



【GC JOINTの学び(2年生)】

・今回のGCジョイントで1番印象的だったのは1年生の発表です。最後まで楽しく聞くことができました。聞く側で気づいたのは、どうやって自分の発表のインパクトを残すかが大事だということです。みんなが相手の心に響かせていくように堂々と自分の中にある言葉を話していて、その言葉が私の心にも強く響きました。発表を聞いたあとに余韻が残るような発表で、そんな発表を私も目指していきたいと思いました。

12月・3月 GC Seminar (GC 2年生対象@本校他)

株式会社ANAビジネスソリューションによる対人コミュニケーション研修

2月 伊丹探究フォーラム2024

本校が「未来を切り拓く力 探究の輪をつなげる学びの場」を主催

GC Seminar



実施内容

主催：伊丹市立伊丹高校 共催：伊丹市教育委員会

開会挨拶

基調講演 山田剛史共創アドバイザー
「探究の扉を開く：生徒の未来をつくる学びのデザイン」

実践紹介 市立伊丹高校・県立尼崎高校・県立川西緑台高校

ポスターセッション

市立伊丹高校・県立尼崎高校・県立川西緑台高校・県立須磨友が丘高校
啓明学院高校・府立泉北高校・関西大学北陽高校

パネルディスカッション 市立伊丹高校・県立川西緑台高校

閉会挨拶



本校生・他校の高校生・中学生
教員・保護者等、計約100名が参加

伊丹探究フォーラム2024



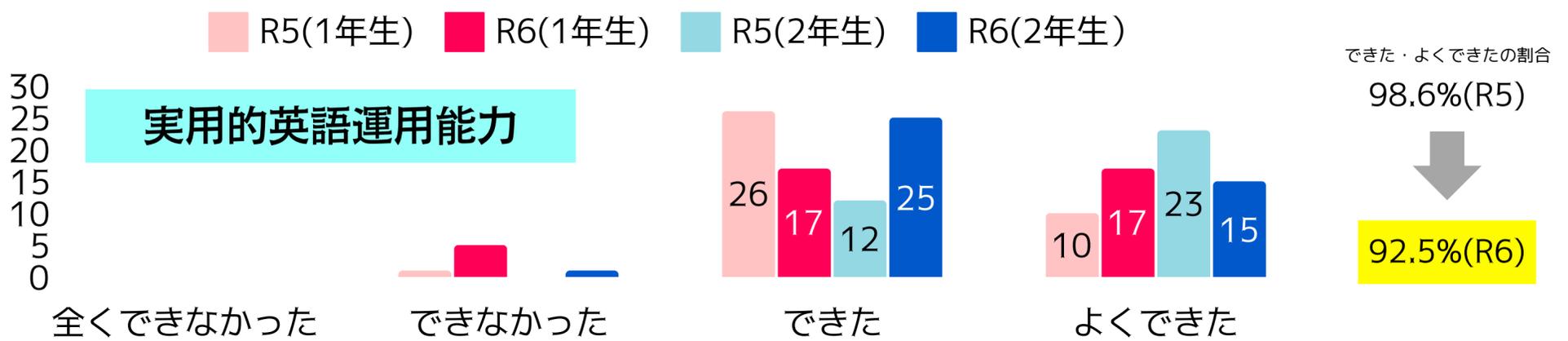
2月 社会とつながる講演会 (GC 1・2年生@本校)

株式会社クロフネブライダルの中村典義氏による「自らの人生の作り方」についての講演会

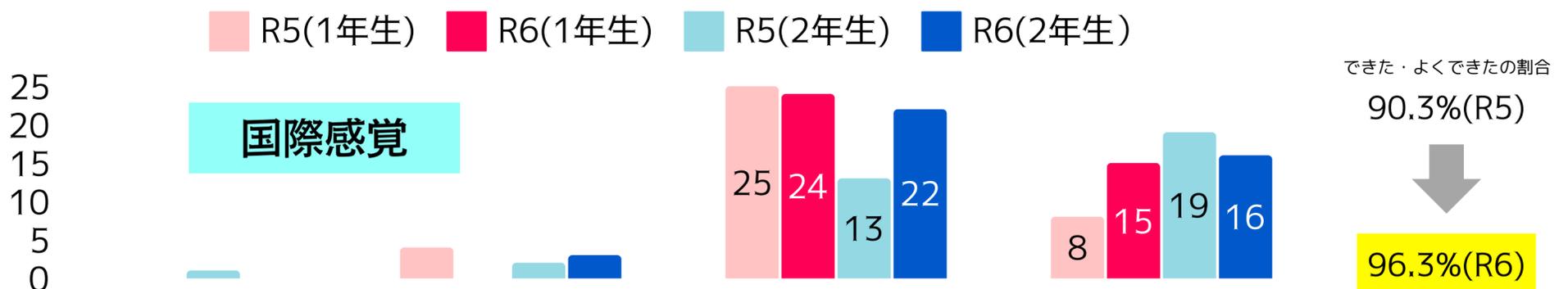


令和6年度生徒アンケート ～令和5年度との経年比較～

Q. 英語を使って新たな知識や考え方を得る力が身についたか。



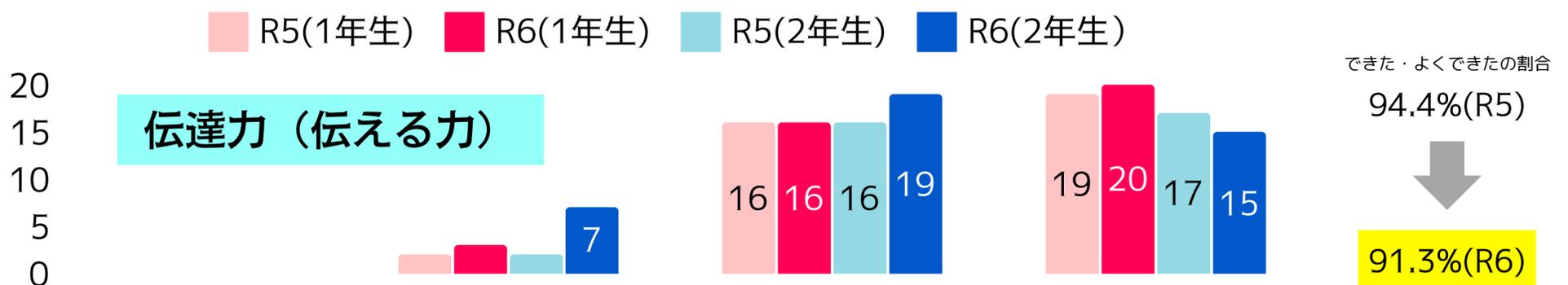
Q. 異なる視点や異なる文化を理解しながら、情報をまとめる力が身についたか。



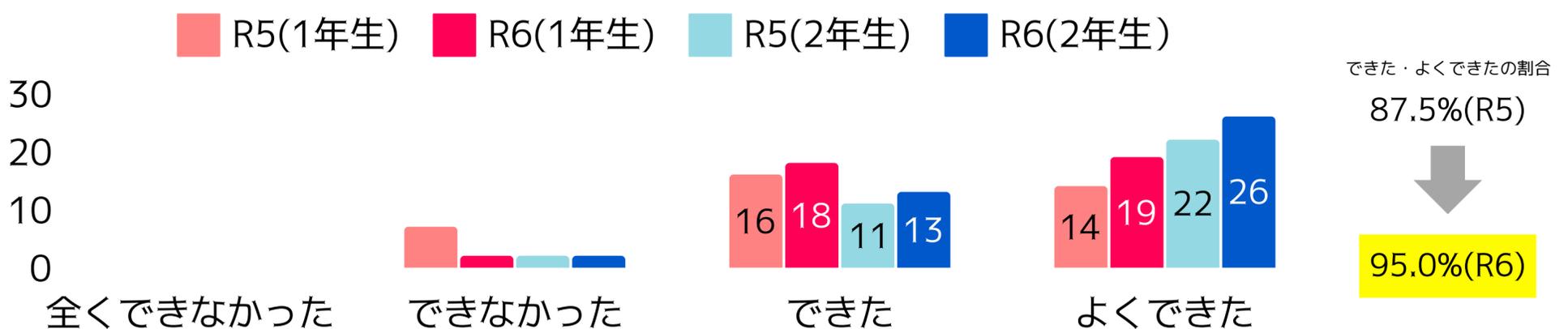
Q. 課題と自分自身との関わりを考えながら、独自の視点で課題解決にアプローチする力が身についたか。



Q. 探究学習の過程で、自分の意見や考えを自分の言葉で表現する力が身についたか。



Q. 探究学習を通じて、自分の成長を感じましたか。



学校と社会 伊丹と世界 学びと学び 現在と未来 をつなぎます



伊丹市立伊丹高等学校

〒664-0857 兵庫県伊丹市行基町4丁目1番地

E-mail: co-creation@ichiita.com